

(別紙 10)

山形県におけるクマ類出没防止対策の実施に係る計画/評価報告
(出没防止対策事業) ①

1 事業実施地域周辺の現状の出没・被害状況、出没防止対策の実施状況及び課題等

1 出没・被害状況

	村山地域	最上地域
目撃件数(R6)	100 件	22 件
人身被害(R6)	2 件	0 件

2 出没防止対策の実施状況及び課題等

令和 6 年度から県単独事業で、放置果樹の伐採経費に係る補助を実施したが、全 11 市町村が活用したうち、村山と最上地域は 1 自治体ずつと、防除対策への関心の低さを感じている。

2 出没防止対策の具体的な内容

実施時期	令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月
場所	村山、最上地域
目的・目標	クマの市街地出没対策に係るモデル的取組みを他地域へ波及させ、人身被害等の防止を図る。
内容	本事業は令和 6 年度も交付金を活用して、県内 4 地域のうち置賜、庄内地域で実施した。今年度は残り村山、最上の 2 地域で実施する。 モデル地域を選定し、地域住民が主体となった総合的・継続的なクマの市街地出没対策に係る次の取組みを重点的に支援する あわせて、これらのモデル的取組みについて広く周知し、他地域への波及を図る。
方法	次のモデル地域の取組みを重点的に支援 1 集落点検 2 住民向けの講義 3 放置果樹の伐採や緩衝帯整備に係る指導と補助金による支援 ※補助金は県単独事業 これらモデル地域の取組みを、令和 6 年度に作成した置賜、庄内地域の事例集に組み込んで再編集し、県内全 4 地域のモデル的取組として SNS 等で広く周知し、県内全域へ波及させる。
評価方法	県補助金を活用した放置果樹の伐採本数及び緩衝帯整備を実施した地区数 ※モデル地域の影響を受けるなど、取組みの波及状況の評価する指標として
事業費とその算出方法	事業費 3, 8 7 4, 0 0 0 円 (以下②の事業費含む(同一事業者へ委託)) 積算方法: 必要額の積上げ
備考	

注 1: 事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に関する実績や結果を具体的に記入すること。出没防止対策が複数ある場合は、対策の種類毎に各項目を記載すること。

注 2: 実施主体が市町村の場合、各市町村の実施する具体的な内容を記述すること。

3 実施した出没防止対策の評価（事業終了後の評価報告時のみ）

講義やワークショップを通じて、地区が主体的に実施可能な対策を提示し、住民の理解促進と意識醸成を図った。痕跡及び目撃情報からクマが出没しやすい箇所を住民が把握したことで、藪の刈払い等対策を継続し、今後も人身被害リスクを低く維持できると考えられる。

また、環境整備について専門家を活用することで、人口減少下においても取り組まなければならないことの優先順位付けが可能となり、今後の対策に反映できるよう意識してもらうことができた。

地域で行うクマ市街地出没対策のモデル地域の取組を、令和6年度に作成した置賜、庄内地域の事例集に組み込んで再編集し、県内全4地域のモデル的取組として県内全域に波及させるべく、県ホームページにて広く周知を行った。

注1：当初予定されていたとおり事業が適切に実施されたか記載すること。

注2：事業実施地域ごとに、事業実施前後の被害指標（出没件数、被害件数、被害感等）を比較し、事業実施の効果が事業実施地域に現れているか評価すること（定量的な指標が難しければ、客観性を確保した定性的な指標を使用する。）。なお、事業効果の比較は同じ季節に行うことが望ましく、当該年度内での事業実施後の効果の確認が難しい場合は、次年度の実施とする旨記載すること。

注3：注1による効果検証を踏まえ、事業の設計（事業の質や内容）の妥当性や、事業の実施方法の適切性を評価し、課題と改善の方向性を記載すること。

4 その他

--

注1：出没防止対策の実施に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。

注2：事業終了後の評価報告において、特記事項に対するコメントがあれば記入すること。